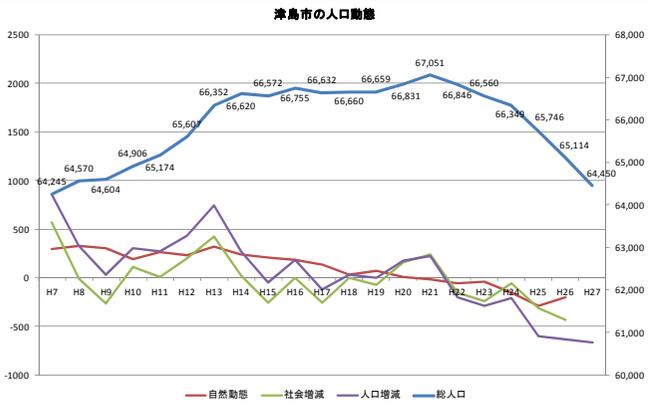


## 1 基本統計分析等からみた問題

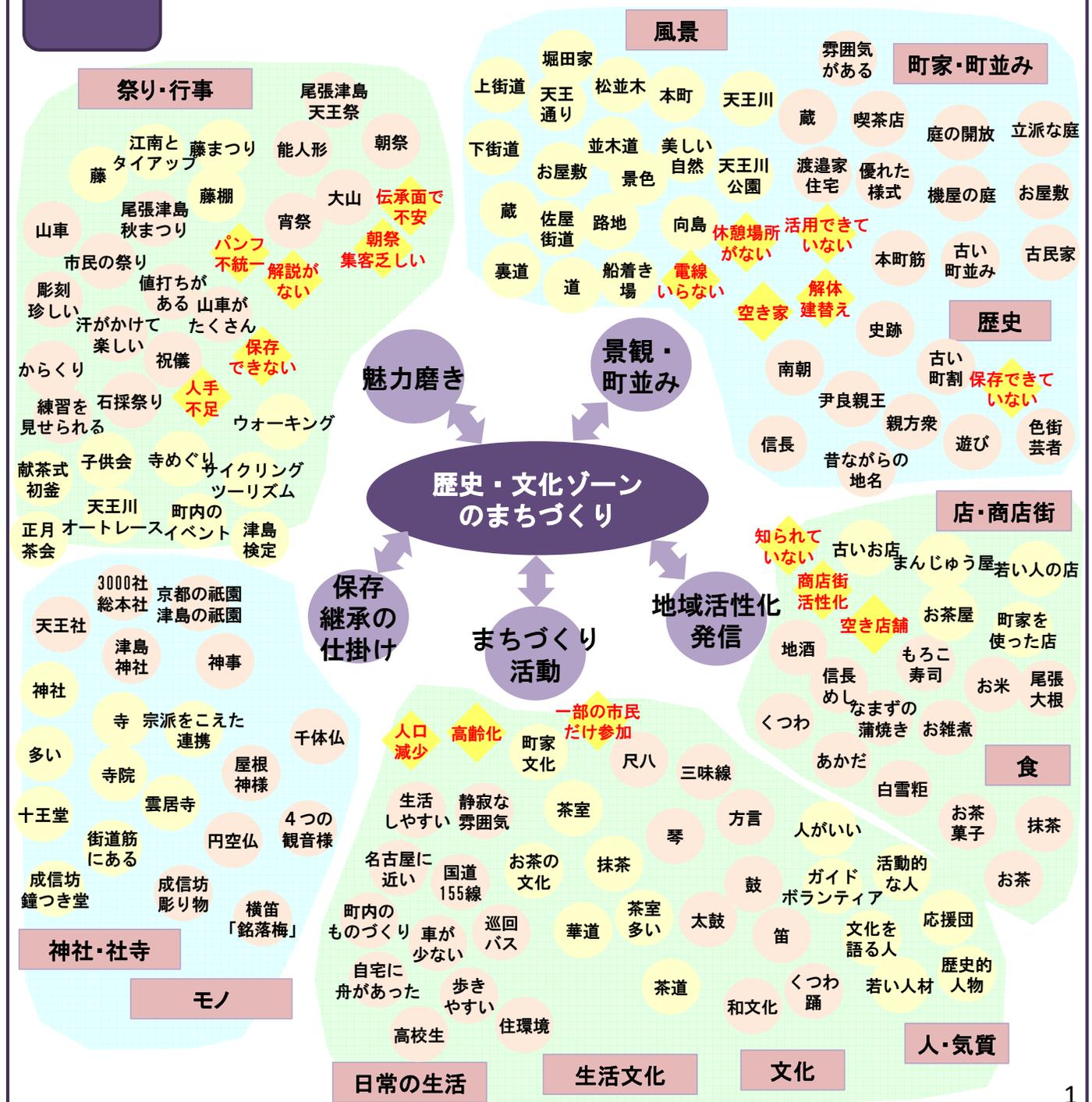
人口動向	○平成21年の67,051人をピークに人口減少 ○将来的にも少子高齢化・人口減少が進む
歴史・文化ゾーン	○歴史・文化ゾーン内の人口も減少しています。
産業構造	○事業所数、従業員数ともに減少傾向 ○商業の年間販売額も減少傾向にあります
観光動向	○入込客数は144万人(H26)。津島神社が約6割。 ○月別変動では、1月の津島神社の初詣が40万人、4・5月の藤まつりが31万人、7月の天王祭が24万人。 ○祭り時の一時的集客のみで通年は乏しい。
現地調査	○本町筋の伝統的建築物について、1988年調査時点から現在にかけて、約3割現存せず。解体進む。 ○空き家・空き店舗化が進む。



## 2 総合計画策定時に指摘されたまちづくり面での課題

「地域資源を活用した都市の魅力づくり」の面から	○歴史文化の保存・継承が困難 ・尾張津島天王祭、秋まつり、藤まつり、本町筋の町並み、茶室など ・歴史文化に触れあう機会が少ない ・市民の共通財産という認識が不十分 ・資源が有効に活用されていない ・魅力の効果的な発信 ・にぎわいによる地域経済の活性化など
「都市の成長力の維持・強化」の面から	○地域経済の活性化 ・主力産業(繊維産業)の衰退 ・歴史文化資源を活かした観光戦略 ・人口増のための雇用創出、住環境整備
「地域の総合力の向上」の面から	○行政主体のまちづくりでは限界 ・担い手となる人材発掘・育成 ・市民力、地域力の向上 ・市民活動団体の育成 ・民間の発想力・事業能力の有効活用 ・協働のまちづくりの推進

## 3 タウンミーティングやヒアリングで出された意見(津島市の魅力)



# ■津島市における主な課題と魅力・・・今後のまちづくりの方向性

## 津島の課題と魅力

### 4 津島市の魅力

タウンミーティングで多くの魅力を確認しました。

- 美しい風景
  - ・天王川公園、自然、本町筋、路地など
- 歴史
  - ・史跡、古い町、昔ながらの地名など
- 祭り・行事
  - ・天王祭、藤まつり、秋まつりなど
- 津島神社、社寺
- 暮らし・文化
  - ・本町筋、町家、庭、抹茶文化など
  - .....

### 5 まちづくりにおける問題点と課題

域内人口の減少、空き家の増加などが、まちの活力を失わせています。

既存資源を活用した、新たな商業活動の創出、居住人口の増加を図る必要があります。

町並みを形成していた家々が、次々に壊されています(新しい家が変わっています)。

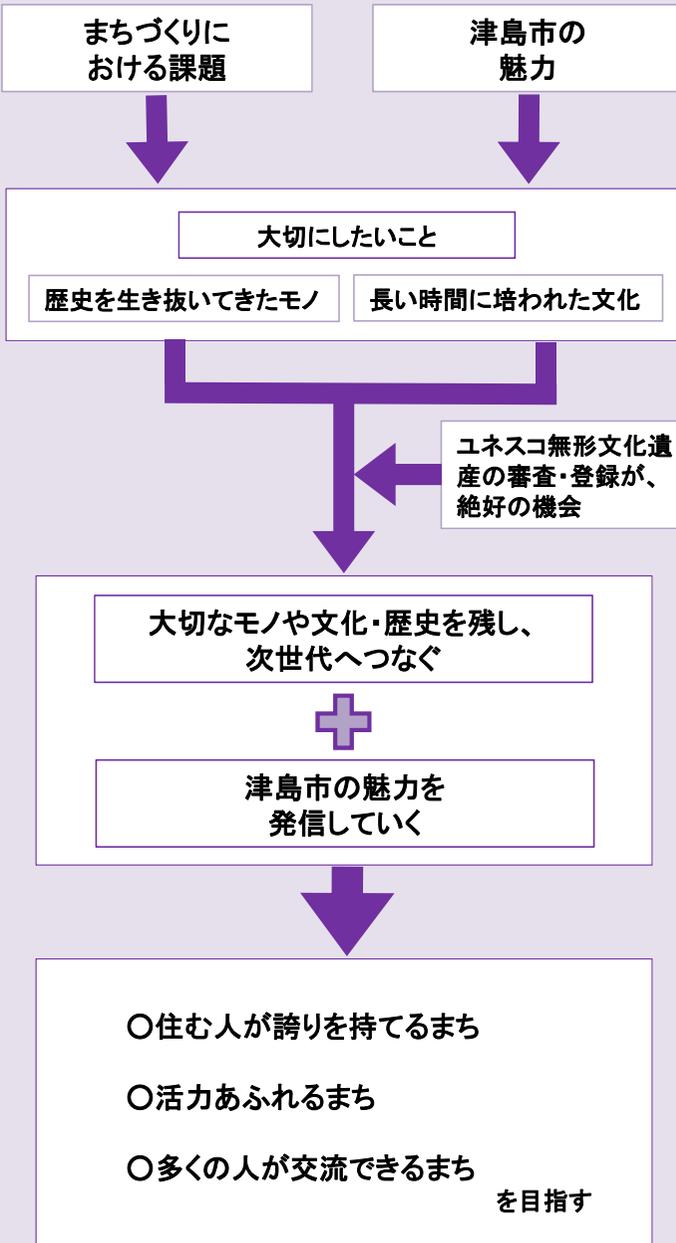
津島の“まち”が営々と形づいていた町並みを、保存・再生に取り組む必要があります。

津島を訪れる観光客は、初詣やお祭りなど限定された日に集中しており、観光産業を育成できていません。

通年を通して観光客が訪れる動機となる新たな観光資源を用意する必要があります。

## 今後のまちづくりの方向性

### 6 今後のまちづくりの方向性を考えると



## まちづくりアイデア例

### 7 方向性を実現するためのアイデア案

#### 1. 魅せる

- 祭り会館で、天王祭を通年魅せる
- 秋祭りの日を津島じゅう祭りの日にする
- 天王川公園の四季折々の風景を魅せる
- 堀田家住宅でお茶会等のイベントを通年開催する
- 町家でお茶会をする
- 美術館で、郷土出身の作家の作品を展示する
- まちなかギャラリーで作品を展示する
- 氷室作太夫家住居を活用する
- お囃子の稽古を公開する

#### 2. 巡る

- 社寺を巡る
- 社寺で同時多発的にイベントを開催する
- 小路を辿ってまちを巡る
- 山車蔵を巡る
- まちなかにトイレをつくる
- まちなかに休憩スペース、バリアフリーのトイレをつくる
- みち案内板をつくる
- まちなかにインフォメーションセンターをつくる

#### 3. 住む・営む

- 町家を修景する
- 町家をリフォームして住みやすくする
- 売手・貸手と買手・借手をつなぐ
- 空き家・空き店舗を利活用する

#### 4. 食・土産・泊まる

- 昔の食を再生する
- スイーツを紹介する
- 各山車にちなんだグッズをつくる
- お寺やゲストハウスに泊まる

#### 5. 発信・おもてなし

- 津島の隠れた魅力を撮ってポスターをつくり、全国に配る
- 観光情報のフリーペーパーをつくる
- 観光情報をリアルタイムで配信する
- 外国人向けの観光情報サイトをつくる
- 観光客をまちかどスペースで案内する
- 語りべをつくる
- 無料の立寄り処をつくる

# ■参考事例：各地の祭り会館

会館名称	高山祭屋台会館	飛騨古川まつり会館	秩父まつり会館	川越まつり会館	高岡御車山会館
市町村	岐阜県・高山市	岐阜県・飛騨市	埼玉県・秩父市	埼玉県・川越市	富山県・高岡市
行事名	高山祭の屋台行事	古川祭の起し太鼓・屋台行事	秩父祭の屋台行事と神楽	川越氷川祭の山車行事	高岡御車山祭の御車山行事
位置					
祭りの概要 (写真)	<p>高山祭は日枝神社の春の山王祭(4月14・15日)と、桜山八幡宮の秋の八幡祭(10月9・10日)の総称で、日本三大美祭のひとつに上げられている。</p> <p>祭の起源は飛騨の領国大名金森氏の時代(1585～1692年)、屋台の起こりは1718年頃にさかのぼる。</p> <p>春の山王祭は、12台の屋台が揃う。秋の八幡祭は、4台の屋台を曳き廻す。</p> 	<p>古川祭は、町内にある気多若宮神社の例祭で国の重要無形民俗文化財にも指定されている伝統神事。</p> <p>この祭は、神社での神事、古式ゆかしい「御神輿行列」が中心となって、「動」の「起し太鼓」と「静」の「屋台行列」が二大祭事として加わり、三つの行事群により繰り広げられる。</p> 	<p>秩父夜祭は、日本三大曳山祭(京都祇園祭、飛騨高山祭)のひとつとして知られ、寛文年間(約300余年前)に既に始められており、笠鉦2基、屋台4基がけん引される。</p> <p>「秩父夜祭」(ちちぶよまつり)として知られる秩父神社の例大祭は笠鉦・屋台の曳き廻しや、屋台ばやし、花火、屋台芝居に曳き踊りなどが加わる。</p> 	<p>「神幸祭」は、氷川の神様が神輿に乗られて川越城下の町々を巡行することで、人々はその御神徳をいただき、幸福と町の繁栄を祈請(きせい)する、という伝統儀式。</p> <p>氷川神社を出御(しゅつぎょ)する行列は、午後1時から市内各所を回り、午後2時30分頃に還御(かんぎょ)する。</p> 	<p>高岡御車山は1588年(天正16年)太閤豊臣秀吉が、後陽成(ごようぜい)天皇と正親町(おおぎまち)上皇を聚楽第(じゅらくだい)に迎え奉るときに使用した御所車を加賀藩初代藩主・前田利家公が拝領し、二代藩主・前田利長公が1609年(慶長14年)に高岡城を築くにあたり、町民に与えられたのが始まりと伝えられている。</p> 
祭りの時期	春の高山祭:4月14日・15日 秋の高山祭:10月9日・10日	4月19日～20日	12月3日	10月の第3土曜、日曜の2日間	4月30日～5月1日
祭りの 観光客数	約30万人	約5万人	約45万人	約70～100万人	約14万人
祭り会館の 概要 (写真)	<p>高山祭の実物屋台を常設展示。4台の屋台を展示。3・7・11月の年間3回の予定で、屋台を入れ替える。日光東照宮の模型も保存展示する。</p> 	<p>古川祭の屋台と御神輿を常設展示。定期的に9台の中から3台の屋台を展示する。物販、レストラン、観光情報コーナー、工房等からなる。</p> 	<p>秩父祭の屋台・笠鉦を常設展示する。映写室、資料展示コーナー、売店等からなる。GW等シーズン時のみ、「秩父屋台ばやし」等の実演が行われる。</p> 	<p>川越まつりの実物の山車2台を常設展示(定期的に入れ替え)。山車展示ホール、視聴覚室、展示コーナー等からなる。お囃子の実演あり(休日のみ)。</p> 	<p>社会資本整備総合交付金を活用し、現在建設中の施設。大神輿、屋台を展示。シアター、カフェなどからなる。</p> 
規模	1,800㎡(RC・一部S造2階建て)	1,948㎡(RC・一部S造1階建て)	1,296㎡(RC造3階建て)	1,836㎡(RC造2階建て)	2,680㎡(RC造3階建て)

# 津島市観光拠点のイメージ

## 1 ねらい

津島市においては、平成26年3月に「尾張津島天王祭の車楽舟行事」を含む「山・鉦・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産の登録に向けて提案されたことを契機に、歴史的・文化的地域資源の現状を踏まえた、歴史・文化ゾーンの活性化に資する施策展開のあり方などについて検討し、歴史・文化のまちづくりを推進しています。

このようなまちづくり推進上の観点から、津島市の歴史・文化を通じた、地域における人・活動の拠点を形成するとともに、地域とまちへの来訪者の交流によって交流人口の拡大をもたらすため、津島市の歴史・文化を保存・継承・発信する観光拠点施設の整備が求められています。

観光拠点施設を整備することで、人と人のふれあい、人と歴史・文化のふれあいを生み出すことによって、暮らし・観光の賑わいを創出し、歴史・文化ゾーンの回遊性を高め、津島市らしさを活かした地域の活性化を図っていきます。

## 2 整備方針

### (1) 観光拠点施設の機能

- 継承** 津島の未来に向けた歴史・文化継承の拠点
- 創造** 文化振興・芸術活動の支援のための地域創造の拠点
- 協働** 地域活力の源泉となる市民協働の拠点
- 交流** 市民・地域・来訪者による多彩な交流の拠点

### (2) 候補地

津島神社と津島駅、天王川公園で囲まれたエリアで選定。

#### 選定の考え方

- 交通：津島駅・道路等の交通アクセス
- 賑わい：周辺の賑わい形成や相乗効果
- 回遊性：歴史・文化ゾーン内の位置
- 規模：施設・駐車場用地の確保
- 転用：既存施設の土地の転用可能性



## 3 活動・事業

津島市の誇る歴史・文化「尾張津島天王祭の車楽舟行事」を核として、市民と地域が主役となり、人や祭・地域産品などの地域資源と来訪者が交流する、多彩で活発な活動や事業を展開。

### 尾張津島天王祭の楽車舟行事の体感事業

原寸大の巻藁舟・車楽舟、津島笛により、市民や観光客が天王祭を体感する。

### ガイドランスによる交流事業

ガイドボランティアや祭関係者が映像や収蔵品を紹介し、地域と観光客が交流する。

### 収蔵品・セミナーによる学習事業

収蔵品や管理者・祭関係者によるセミナーを通じて、歴史・文化を学習する。

### 祭道具などの収蔵・保存事業

祭道具や貴重な古文書・宝物等を収集・保存管理し、各種活動・行事で活用する。

## 4 施設のイメージ

- ◇小中学生・一般市民や観光客が、気軽に訪れることができる開放的な施設
- ◇歴史・文化ゾーンの回遊性の向上に寄与するための、まち歩きの拠点となる施設
- ◇歴史・文化の紹介・学習を通して、地域住民と来訪者の交流を図る施設
- ◇重要な歴史・文化資源を適切に保存管理し、後世に歴史・文化を継承する施設
- ◇老若男女を問わず全ての人や環境負荷にも配慮した、人と環境に優しい施設

スペース	機能
巻藁舟・車楽舟 行事体感スペース	原寸大の巻藁舟・車楽舟を使用して、尾張津島天王祭の車楽舟行事を体感。祭関係者が笛太鼓を披露・指導
映像交流スペース	映像による歴史・文化の紹介・学習
歴史文化交流スペース	祭道具・古文書・宝物等による歴史・文化の紹介・学習
図書スペース	文献等による歴史・文化の学習・教育・研究
収蔵スペース	祭道具・古文書・宝物等の保存管理（恒温・恒湿機能、荷解き）
歴史文化研修スペース	セミナー等による歴史・文化の紹介・学習。笛太鼓の練習等、多目的に利用（100名収容）
観光案内スペース	津島市や海部地区の観光名所・歴史・文化・特産品等の案内
地域物産紹介販売 スペース	津島市の特産品（あかだ、くつわ等）の紹介・販売
事務スペース	施設管理者、ガイドボランティアの執務スペース。施設の中央管理

# ■歴史・文化ゾーンでのまちづくりアイデア例

